

第 27 回安房地域母親大会

～ 生命を生み出す母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます ～

シンポジウム

「女性の人権と戦争を考える」

第一部：ミニ講演

あまはみちこ

・天羽道子さん

(かにた婦人の村 名誉村長)

やん ちんじゃ

・梁 澄子さん

(希望のたね基金 代表理事)

第二部：対 談



天羽道子さん



梁 澄子さん

と き 2022 年 1 月 22 日 (土)

13:30 ～ 15:30

ところ 館山市コミュニティセンター 第一集会室

参加費 無料 (資料代 500 円)

定員 75 名 (先着予約制) ⇒ 氏名・電話・居住市町をお知らせ下さい。

【申込・問合先】 TEL 090-5762-5956(関) 090-6479-3498(池田)

FAX 0470-22-8271 メール awabunka.npo@gmail.com

◎ 来場者は検温やマスク着用等の感染対策にご留意のうえ、
体調不良の場合はご来場をお控え下さい。



主催：第 27 回安房地域母親大会実行委員会

実行委員長：田中房江 副実行委員長：池田恵美子

構成団体：国連 NGO 新日本婦人の会館山支部、国連 NGO 新日本婦人の会鴨川支部

国連 NGO 新日本婦人の会鋸南やまゆり班、連協安房地域女性連絡会

全日本年金者組合安房支部、NPO 法人安房文化遺産フォーラム

後援：館山市教育委員会、南房総市教育委員会、鴨川市教育委員会、鋸南町教育委員会

この世に生まれてきたからには要らない人は一人もいません。

「かにた婦人の村（通称かにた村）」は、館山の海を見下ろす高台にあります。キリスト教の深津文雄牧師が、「底点思考」を理念とし、知的障害や精神障害を持ち自活困難な女性たちの生活を支えるために、売春防止法にもとづく婦人保護長期入所施設として1965年に開設しました。館山の自然豊かな環境の中で、大家族のように寄り添いながら、農園・洗濯・手芸・調理などの作業をとおして、ゆったりと自分らしく暮らしています。傷ついた女性たちは、「村づくり」への参加から自己肯定感や自尊心を回復し、生きる喜びを分かち合う「地域づくり」へのお手伝いをしたいと願っています。

深津牧師の後を継ぎ、長く施設長を務めてこられた天羽道子さんは、「ごめんなさい」「ありがとう」と、感謝し認め許し合う生き方を「かにた文化」とおっしゃいます。地域社会に生きる私たちは、コミュニティの在り方としてここから学ぶことが多いのではないのでしょうか。

そうした「かにた文化」のなかで癒やされた一人の女性（城田すず子さん）が、戦後40年を経たときに従軍慰安婦だった過去を告白し、仲間を慰霊してほしいと願いました。二度と女性の人権が踏みにじられることがないようにと祈りをこめて、施設内の丘上に「鎮魂の碑」と墨書された檜の柱が建立され、翌年「噫従軍慰安婦」と刻まれた石碑になりました。

一方、「希望のたね基金（通称キボタネ）」は、日韓の若者が「慰安婦」問題について共に学び、意識ギャップを埋めて、「終わらせる」のではなく、「記憶・継承」することで、二度と同じような被害者を生まないように、2017年に設立されました。性暴力のない、平和な社会づくりを目指して、セミナーやスタディツアー、留学支援など様々な事業に取り組んでいます。

PROFILE

あまはみちこ

天羽道子 さん

婦人保護長期入所施設「かにた婦人の村」

名誉村長（前施設長）

1926年、満州（大連）生まれ。新京（長春）で高等女学校卒業後、東京にでて進学、終戦の翌年卒業。深津文雄牧師と出会い、1949年に日本で最初のディアコニッセ（奉仕女）を志願。1954年5月、戦後の社会の悲惨に仕える奉仕運動体として誕生した「ベテスダ奉仕女母の家」に入館。1958年婦人保護施設「いずみ寮」開設。1965年「かにた婦人の村」開設、1978年より転籍し、施設長を経て、現在名誉村長。国内唯一、全面的に自分を現わして従軍慰安婦体験を証言した城田すず子（仮名）の生活を長く支える。1994年に開催した第1回安房地域母親大会の初代実行委員長。

やん ちんじゃ

梁 澄子 さん

一般社団法人希望のたね基金

代表理事

通訳・翻訳、語学講師。

1990年から日本軍「慰安婦」問題に関わる。1993年提訴の在日朝鮮人「慰安婦」被害者・宋神道さんの裁判支援をおこない、2007年にドキュメンタリー映画『オレの心は負けてない』製作。日本軍「慰安婦」問題解決全国行動共同代表。韓国ソウル「戦争と女性の人権博物館（WHR）日本後援会」代表。1930年代に韓国済州島から安房に移住した海女一世の聞き取り調査をおこない、1988年に共著『海を渡った朝鮮人海女-房総のチャムスを訪ねて』発行。